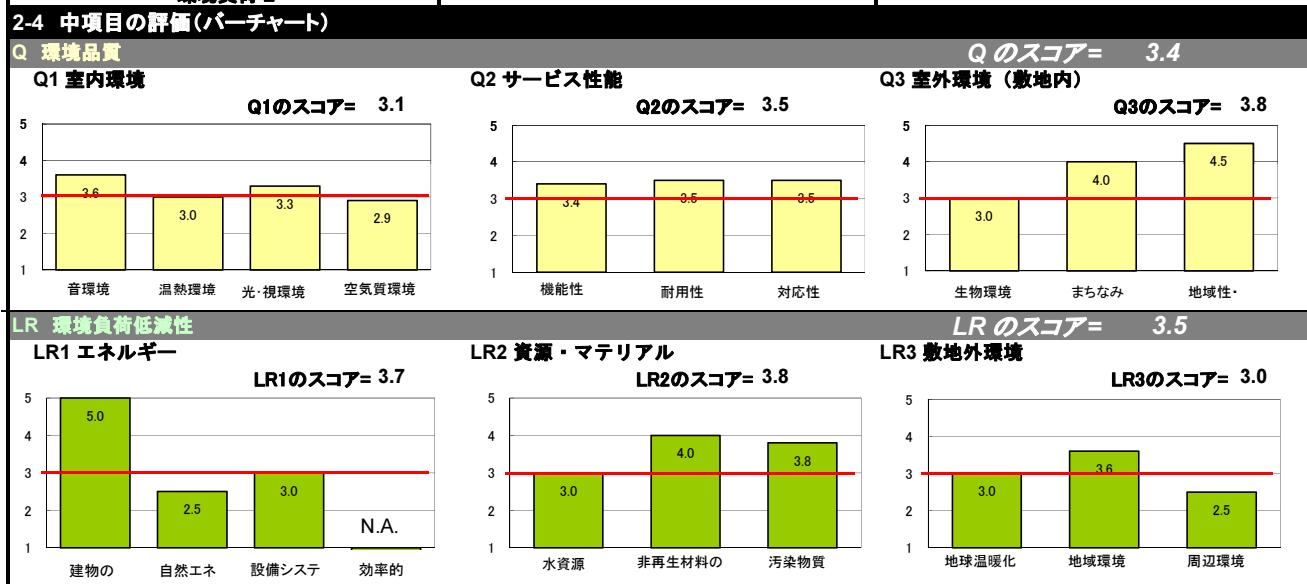
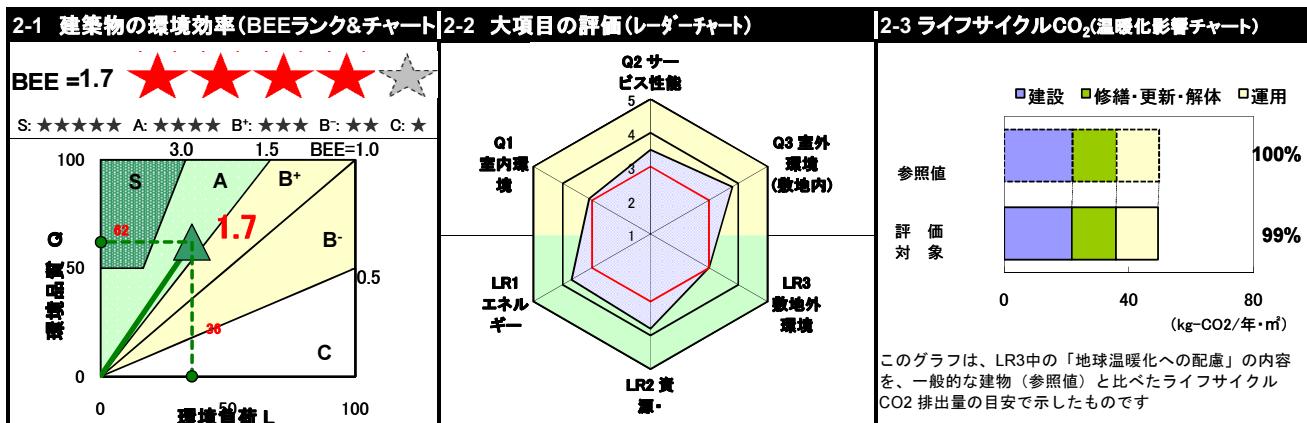


# CASBEE 新築[簡易版]

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	複合施設	階数	地上4F
建設地	京都市左京区下鴨南野々神町1番地	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種	平均居住人員	80人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年9月6日
敷地面積	32,854 m <sup>2</sup>	作成者	岡田孝介
建築面積	634 m <sup>2</sup>	確認日	2010年9月8日
延床面積	2,090 m <sup>2</sup>	確認者	福田之一



3 設計上の配慮事項		その他	
<b>総合</b>		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
<b>Q1 室内環境</b>		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
アルミサッシ遮音性能T-2を採用。歩行音に考慮し、スラブ厚150+タイルカーペットを採用。各階のロビーとなる交流室は窓を大きく確保した。		敷地南側のヒマラヤ杉を残す建物配置とした。空調機器等は原則として屋上に配置し、景観上ルーバーによる目隠しをおこなった。	
<b>LR1 エネルギー</b>		<b>LR3 敷地外環境</b>	
ポイント法によるPAL値 181、LED照明、省エネ制御、エコ給湯を採用		<「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項> 駐輪場の確保、サービス用車路・駐車場の確保、周囲に影響が少ない車動線。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される